

第4学年 国語科学習指導案

日時 令和4年2月9日(水)5校時

対象 第4学年1組 30名

2組 32名

授業者 1組 福田 久紘

2組 佐藤 千紗

研究主題

主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成
～適切な言語活動を通じた授業改善を目指して～

中学年分科会の目指す児童像

「言葉に着目し、自分の思いや考えをまとめ、伝え合う児童」

- 1 単元名 「興味をもったところを中心に、『うなぎのなぞ』をしようかいしょう」
教材名 「ウナギのなぞを追って」(光村図書 第4学年下巻) 筆者 塚本勝巳

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

- ・様子や行動を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。 【知－(1)オ】
- ・目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。 【思C－(1)ウ】
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。 【思C－(1)オ】
- ・文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気付くことができる。 【思C－(1)カ】
- ・進んで本文を読み、既習事項を生かしながら自分の興味を中心を見付け感想や考えをもったり、中心となる語や文を探そうとしたりしている。 【主】

(2) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 様子や行動を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにする。 【知－(1)オ】	① 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する。 【思C－(1)ウ】 ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつ。 【思C－(1)オ】 ③ 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気付く。 【思C－(1)カ】	① 進んで本文を読み、既習事項を生かしながら自分の興味を中心を見付け感想や考えをもったり、中心となる語や文を探そうとしたりしている。

3 本単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）国語編 第3学年及び第4学年に記載されている次のことを扱っている。【学習指導要領から抜粋】

[知識及び技能]

(1) オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。

[思考力、判断力、表現力等] C 読むこと

(1) ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。

カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気付くこと。

本単元で身に付けさせたい力は、以下の2点である。

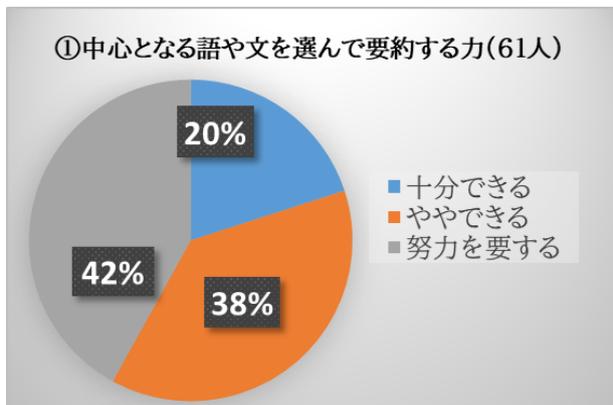
①興味をもったことに合わせて、中心となる語や文を選んで要約する力

②文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもち紹介する力

上記を身に付けるために、「ウナギのなぞを追って」を読んで、自分が興味をもったことについて要約し、自分が考えたことを家族や地域の人に紹介する学習課題を立てた。

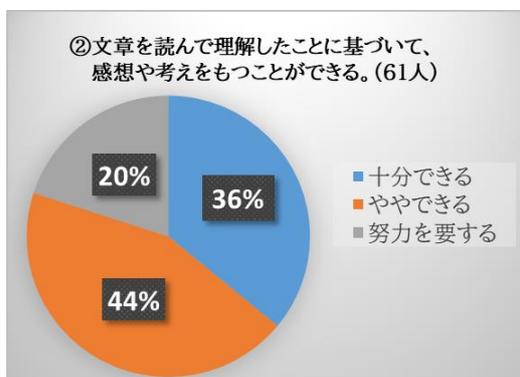
説明的な文章の学習として、これまでに、考えと理由の関係を捉えたり、中心となる語や文を見つけて文章全体を要約したりする学習を行ってきた。要約することは、文章に何が書かれているか端的に説明するために必要である。要約するためには、文章全体の内容を正確に把握し、その中で中心となる語や文、文章中で必要な情報はどれなのかを見付けなければならない。全文の要約ではなく、「自分が興味をもったところ」に限定することで、中心となる語や文をより吟味して捉えることができると考える。また、興味をもったところが人それぞれ違うことから、文章を要約しウナギのなぞについて自分が考えたことを友達や家族、地域の人に紹介する単元のゴールを設定することで、様々な考えに触れることができるようにする。中心となる語や文、必要な情報を抜き出し要約しやすいようにするために、デジタル教科書などのICT機器を活用していく。

(2) 児童観



本単元で身に付けさせたい力である「中心となる語や文を選んで要約する力」は、左記の結果(対象者:56名)から分かるように6割程度の児童が身に付いている。児童は、11月に学習した「世界にはほこる和紙」で本文全体の要約に取り組んだ。筆者の考えを捉え、各段落から中心となる語や文を見付けることが難しい児童もいた。そのため、ヒントカードを渡し自力で見付けることができるよう促し、その後全体で確認した。児童が一番苦手意識をもっていたのが、分量を考えながら短くまとめることである。本単元では、児童が「興味をもったところ」を要約していく。興味の

中心となる語や文、必要な情報を抜き出し要約しやすいようにするために、デジタル教科書の黒板機能を使用する。中心となる語や文を見付けることが困難な児童には、自分の興味の中心を明確にし、デジタル教科書のワークやヒントカードを基に必要な情報を見付けることができるようにしたい。



また、「文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつ力」は、左記の結果から分かるように8割程度の児童が身に付けている。本単元では、自分が興味をもったウナギのなぞについて、自分はどう思ったのか、文章を引用し根拠をもたせたり例を挙げたり、既習事項を生かして感想や考えをもつことができるようにしたい。また、リーフレットを作り、保護者に紹介する単元を設定することで、読み手を意識して取り組むことができるようにしたい。

(3) 教材観

本教材は、長い年月をかけてウナギの産卵場所について調査したことをまとめた調査報告文である。尾括型の文章構成になっており、どのように調査を進めてきたのかを年代を追って説明している。ウナギの産卵場所を特定する調査に80年の年月がかかったことや、ウナギがたまごを産む場所の謎が徐々に解明されていくことなど、ドキュメンタリーのように年代を追って読み進めていくことを通して、研究の楽しさや難しさや、研究者の熱い思いに触れることができる教材となっている。

また、本教材には11種類の資料（絵や写真、図表）がある。文章だけではイメージしにくいものも、資料と文章を対応させることで理解しやすい。これは、文章を正確に読む力を付けることにつながると考える。

(4) 学習材の分析

<ウナギのなぞを追って> 尾括型

終わり	中								初め	構成		
⑬	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③②①	段落	
筆者の主張	調査②								調査①	話題提示	段落の役割	
ウナギのなぞを解くために、今年もマリアナの海にやってきた。	二〇〇九年、五月二十二日、一・六ミリメートルのウナギのたまごがとれた	海水の境目のフロントに着目し、調査を続けた。	二〇〇五年六月七日、体長五ミリメートル、生後二日のレプトセファルスがとれた。	二つの予想を基に調査を続けたが、たまごもレプトセファルスもとれないことが何年も続いた。	ウナギは、新月のころに合わせ、いつせいにたまごを産んでいることが分かった。	一九九四年ころ、これまでの調査で分かったことをまとめる。大きな三つの海山の近くでたまごを産むのではないかと予想する。	一九九一年、マリアナ諸島の西、北赤道海流の中で、十ミリメートル前後、生後二十日ほどのレプトセファルスがとれた。	一九七三年、筆者が調査に加わる。海流の上流に行くほど、小さいレプトセファルスがとれた。	一九六七年、台湾近くの海で、体長五十四ミリメートルのレプトセファルスがとれる。	より小さなウナギを追い求める。	今年もマリアナの海で、ウナギがどんな一生を送る生き物なのかを調査している。 一九三〇年、産卵場所の調査	段落の内容
知りたいことはまだまだふさがるばかりだ。これらのなぞをとくために、わたしたちは、今年もマリアナの海にやって来たのだ。	二〇〇九年五月二十二日、新月の二日前の明け方、ウナギのたまごらしいものが二つとれた。大きさは、ほんの一・六ミリメートル。初めて調査に加わってから、三十六年	「新月のころに」、「フロントと海山の連なりが交わる地点」でたまごを産むかもしれない。	「海山の近く」「新月のころ」という二つの予想にもとづいて、調査を続けた。 二〇〇五年六月七日、新月の日、マリアナ諸島の西にある海山付近で体長五ミリメートル、生後わずか二日の、ウナギのレプトセファルスを見付けることができた。	多くのたんじょう日が、新月の日前後に集まっていることが分かった。	西向きに流れる北赤道海流をさかのぼって、東へ行くほど、とれるレプトセファルスは小さくなっている。 大きな三つの海山が、南北に連なっていた。	一九九一年、マリアナ諸島の西、北赤道海流の中で、調べてみると、生後二十日ほどのものだと分かった。二十日分のきよりを計算して海流をさかのぼれば、親ウナギがたまごを産んだ場所にたどり着けるはずだ。	調査に加わったのは、一九七三年。調査の範囲を南へ、そして東へと広げていった。海流の上流に行くほど、小さいものがあるはずだ。体長は、しだいに小さくなっていった。	レプトセファルスが最初にとれたのは、一九六七年、場所は台湾の海。	より小さいウナギを追い求めることから始まった。とうめいでやなぎのような形をしている。しずみにくく、海流に乗って運ばれやすくなっている。	今年もマリアナの海 調査が始まったのは、一九三〇年ころ 場所がつき止められるまでに、実に八十年近くの年月	着目させたい言葉・文(調査について)	
ウナギがどこでたまごを産むのかという問題は明らかになった。知りたいことはまだまだ増えるばかり。	たまごの大きさはほんの一・六ミリメートル。初めて調査に加わった時から三十六年の年月が流れていた。	フロントと海山の連なりが交わる地点でたまごを産むのかもしれない。	たまごはレプトセファルスはよりずっとせまいはんに固まっている。 さらに場所をしばり込まないといけない。	新月の頃に合わせ、いつせいにたまごを産んでいるようだ。	東に行くほど取れるレプトセファルスは小さくなる。 ある地点を超えたとばかりとれなくなる。改竄が何か役に立っているのかもしれない。	一九九一年には、マリアナ諸島の約千びきとることができた。	さらに小さなレプトセファルスを求めて、調査のほんい、海流の上流へ行くほど小さいものがあるはず。	体長は五十四ミリメートル。 生まれた場所は、海流をさかのぼった先	とうめいでやなぎのような形をしている。海の中でしずみにくく、海流に運ばれやすくなっている。	今年もマリアナの海に、 実に八十年近くの年月がかかった。	着目させたい言葉(レプトセファルスについて)	

<紹介文の例>

「ウナギのなぞを追って」は、筆者の塚本勝巳さんが、ウナギがたまごを産む場所を突き止めるために調査した話です。

1930年、調査はレプトセファルスを探すことから始まり、最初にとれたのは1967年でした。筆者が調査に加わったのは1973年。海流の上流へ行くほど小さいものがあると予想し、1991年に十ミリ前後のレプトセファルスがとれました。1994年には、北赤道海流をさかのぼって東に行くほどレプトセファルスが小さくなっていること、大きな3つの海山が連なっているところをこえるととれなくなることに気付きました。また、ウナギは新月のころにたまごを産むことがわかりました。さらに筆者は、「新月のころに」「フロントと海山の連なりが交わる地点」でたまごを産むと予想し、2009年、ウナギのたまごをとることができました。塚本さんが調査に加わってから、三十六年経っていました。

私は、たまごを産む場所にたどり着くために、様々な予想を立てて調査をしたところがすごいと思いました。

(435字)

4 研究主題に迫るための手立て

○ 児童の関心を深める単元課題の設定

(1) 学習活動への目的意識

文章の中で興味を持ったことを中心に要約し、友達や家族、地域の人へ紹介する学習課題を設定する。目的意識をもたせて活動に取り組むことで、文章を読んだことがない人にも分かりやすく要約し、文章を読んで自分がどのように考えたのかを表現しようとする意欲が高まると考える。

(2) 校内、地域との連携

栄養士と連携し、食育の一環として、給食で土用丑の日を紹介してもらったり、給食のメニューとして提供してもらったりすることでより学習活動に興味を持たせたい。

また、出来上がった紹介文を、校区内にあるうなぎ屋（野田岩）さんに置いてもらう。保護者との話題の広がり、地域の方との交流を通して、学習をより深めていくようにする。

(3) 他教科との関連

本単元に入る前に、理科や特別活動の一環として生き物を卵から育てる。児童は、3年生のときに理科でモンシロチョウの卵を観察し、羽化させる学習を行っている。各学級ではメダカを飼育しており、生き物が好きな児童が多い。生き物を卵から育てる経験を通し、本単元への興味、関心を深めることができるようにする。

○ ICT 機器の活用

(1) デジタル教科書の活用

児童が興味をもった内容に合わせて、中心となる語や文を見つける際に、デジタル教科書を使用する。学習に苦手意識を持つ児童や、作業を苦手とする児童の心理的・身体的な負担軽減を行うことで、より学習活動の中身に時間を割けるようにしていく。また、線を引いた箇所や、感想などを共有しやすくすることで、児童同士の考えの交流を活発化し、思考を深められるようにする。

(2) スクールタクトによる思考の共有

スクールタクトの機能を使って、児童の考えをその場で共有したり、児童が一番興味を示している言葉を可視化したりする。可視化することを通して、思考を深められるようにする。

○ 振り返りの充実

毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りの視点として、「分かったこと」「分からなかったこと」「次の時間に考えたいこと」の3つを挙げ、自分の学習について振り返ることができるようにする。コメント等での価値付けや助言を行うことで、自分の学びを具体的に振り返ることができるようにする。また、児童の振り返りを全体の前で取り上げることで、学習の積み重ねを実感できるようにする。

○ 対話活動の充実

対話の目的や視点を提示し、「4つの対話」（「作品との対話」「教師との対話」「自分自身との対話」「他者との対話」）を意図的に本単元の中で展開していく。児童同士で学び合いができるように、グループ編成を考慮して行う。

○ 語彙を豊かにする日常活動

「言葉の宝箱」の言葉を用いた文章作りや辞書での意味調べを、家庭学習や短時間学習の時間を使って日常的に行っていく。言葉の意味や使い方に着目しながら、自分の考えを表現するのにふさわしい言葉を選ぶことができるようにする。

5 単元計画と評価計画（全9時間）

次	時	目標	学習内容	◆評価規準【評価方法】 ・留意点☆支援
短時間学習			1 要約の意味や方法を復習する。 要約 →話や本、文章の内容を短くまとめること。 《要約する方法》 ・話題を捉える。 ・要点を捉える。 ・全体のまとめや、問いに対する答えの部分を中心にまとめる。 2 「ウナギのなぞを追って」という題名からどのようなことが思い浮かぶか話し合う。	・スクールタクトを使用し、児童相互の考えを交流させる。 ☆前単元の活動を想起させたり、ウナギについて知っていることなどを発表させたりすることでイメージを膨らませる。
1	1	感想を発表し合い、感じ方や興味の中心がそれぞれ違うことに気付くことができる。	1 本時の目標を確認する。 感想を共有し、興味の中心を確かめよう。 2 本文を読み、感想を書く。 スクールタクトに打ち込む。 3 感想を発表し合い、友達の興味の中心に注意しながら聞く。 4 キーワードを中心に、友達の興味関心をいくつかの柱に分ける。 5 本時の振り返りをする。	・感想を書く際の視点（すごいと思った点・初めて知った点・疑問に思った点など）を確認する。 ・スクールタクトを活用し、多くの児童が興味をもったところを中心に幾つかのキーワードとしてまとめていく。
2	2	学習課題を把握し、学習計画を立てることができる。	1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。 学習課題を確認し、学習計画を立てよう。 3 単元の課題を確認する。 興味をもったところを中心に、「ウナギのなぞ」をしようかいしよう。 4 学習計画を立てる。 ・どのような形でまとめるか ・まとめたものをどのように使うか ・なぜまとめる必要があるのか ・そのためにもどのようなことを考えたり調べ	・紹介するという活動に目的意識を持たせるために、学校行事等との連携を考える。 ・教科書P 98～99「見通しをもとう」を確認することで、学習課題を正確に押さえる。 ・児童に単元の終わりをイメージさせることで、具体的な学習活動を引き出し、計画を立てさせる。

			<p>たりするのか</p> <p>5 本時の振り返りをし、次時の見通しをもつ。</p>	
3	3	<p>文章の構成を捉え、内容を読み取ることができる。</p>	<p>1 前時の振り返りを共有する。</p> <p>2 本時の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>文章の構成を確かめ、大体的内容をとらえよう。</p> </div> <p>3 形式段落に番号を付け、文章を「初め」「中」「終わり」に分ける。</p> <p>4 「初め」を読み、内容を押さえる。</p> <p>5 「終わり」を読み、内容を押さえる。</p> <p>6 本時の振り返りをし、次時の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料と文章を対応させて読むことで内容の理解につなげる。 ・「初め」と「終わり」を読むことで、第1段落と第13段落が呼応していることに気付かせる。 ◆アー① 様子や行動を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにする。 【ノート】
3	4 5	<p>「中」のまとまりを、文末やキーワードに気を付け、写真や図表と照らしながら読み、調査の筋道を整理することができる。</p>	<p>1 前時の振り返りを共有する。</p> <p>2 本時の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「中」を読んで、たまごを産む場所を見つけるまでの調査を確かめよう。</p> </div> <p>3 予想や推測を表す文末表現を見付ける。</p> <p>4 文末表現に着目し、事実と考えに分けてサイドラインを引く。 →事実：青 考え：赤</p> <p>5 図や写真を照らし合わせながら第4～12段落を読み、内容を捉える。</p> <p>図2：写真→レプトセファルス（第4段落）</p> <p>図3：地図→海流とレプトセファルスの体長（第6段落）</p> <p>図4：地図→レプトセファルスがとれた場所（第8段落）</p> <p>図5：グラフ→レプトセファルスの生まれた数（第9段落）</p> <p>図6：地図→フロントと海山の連なり（第11段落）</p> <p>図7：写真→ウナギのたまご（第12段落）</p> <p>5 「中」を前半と後半に分ける。</p> <p>6 本時の振り返りをし、次時の見通しをもつ。</p>	<p>《着目させたい文末表現》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～と思われる。 ・～と考えられる。 ・～はずだ。 ・～かもしれない。 ・～ようだ。 ・～と予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・資料と文章を対応して読む。 ・デジタル教科書の動画や資料を活用し、調査のイメージをもたせる。 ・段落のまとまりごとに小見出しをつけることで、要点を捉えられているか確かめる。 ・前半と後半に分けた根拠を明確にし、説明できるようにする。

<p>6 本時 (1組)</p>	<p>文章を読み、自分の興味を中心に沿って、中心となる語や文を抜き出すことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分の興味をもったところに合わせて、中心となる語や文を抜き出そう。</div> 3 興味をもったところを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・レプトセファルス ・ウナギの産卵場所のなぞが解明されていくところ ・ウナギの産卵場所を突き止める研究に長い年月がかかったこと 4 興味を中心に沿って、キーワードとなる語や文を抜き出す。 5 グループでキーワードとなる語や文を確認する。 6 本時の振り返りをし、次時の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味を中心に明確にし、「中」についてまとめたことや、わかったことを、掲示資料やタブレットデータとして残しておく。 ・デジタル教科書の黒板機能を活用する。 ・興味を中心に同じ児童同士でグループを作る。 ・友達に教えてもらったキーワードは、色を変えるよう指導する。 <p>◆イー① 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。 ・要点を落とさずにつなぎ言葉を使って要約している。 【スクールタクト】</p> <p>◆ウー① 進んで、既習事項を生かしながら、自分の興味を中心に沿った語や文を探している。 【スクールタクト】</p>
<p>7 8 (2組本時)</p>	<p>自分の興味を中心に沿って、文章を要約することができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分の興味をもったところに合わせて、要約しよう。</div> 3 それぞれの興味を中心に沿ったキーワードを確認する。 4 モデル文を参考に、興味をもったところを要約する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">要約文を友達と読み合い、アドバイスを基に書き直そう。</div> 5 グループで要約文を読み合い、アドバイスし合う。 6 友達のアドバイスを基に再構築する。 7 本時の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールタクトを使用する。 ・読み手を意識できるよう視点を与える。 ・スクールタクトで文章を共有し、コメントを送り合う。 ・事前と事後でどのように自分の文章が変化したのかわかるようにしておく。 <p>◆イー② 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。 ・自分が興味をもったことに対して、感想や考えを書いている。【スクールタクト】</p>

短時間学習 家庭学習		○紹介文を作成する。 《作成の方法》 ・リーフレット ・Microsoftの「Powerpoint」、「Word」 など	・児童がやりやすいもので紹介文を作成できるようにいくつか方法を提示する。
3	9	<p>紹介文を読み合い、一人ひとりの感じ方の違いに気付く、感想を伝えることができる。</p> <p>1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">紹介文を読み合い、感想を伝え合おう。</div> <p>3 グループごとに紹介文を読み合う。 4 全体で感想を共有する。 5 学習の振り返りをする。</p>	<p>・興味をもった内容が違う人とグループを組むことで、より感じ方の違いに気付くことができるようにする。</p> <p>◆イー③ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気付くことができる。</p> <p>・自分が書いた紹介文と比べ、友達の紹介文を読んだ感想をもっている。【付箋紙、ノート、発言】</p>
学校公開にて		・児童が作った紹介文を廊下に掲示し、保護者、地域の方に読んでいただく。	

6 本時の展開

【1組（6／9）】

(1) ねらい

文章を読み、自分の興味の中心に沿って、中心となる語や文を抜き出すことができる。

(2) 本時の展開

時 間	学習内容	・指導事項 ◎豊かな表現を 見取る視点	◆評価規準 ☆支援 ・指導上の留意点
導 入	1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。		
自分の興味をもったところに合わせて、中心となる語や文を抜き出そう。			
展 開	3 興味をもったところを確認する。 ・レプトセファルス ・ウナギの産卵場所のなぞが解明されていくところ ・ウナギの産卵場所を突き止める研究に長い年月がかかったこと 4 興味の中心に沿って、キーワードとなる語や文を抜き出す。 T 自分が興味をもったことで、大事だと思う語や文を見付けましょう。 C ウナギの産卵場所の謎が次第に解明されていくところがおもしろかった。年代は大切だと思う。 5 グループでキーワードとなる語や文を確認する。 T 興味の中心が同じ人同士で、抜き出した語や文を確かめましょう。 C いつ、どこで、どれくらいの大きさのものが採れたのかを入れた方がよい。 C 最初に採れたのは台湾近くの海で、体長54mm。それから海流を遡るにつれて小さくなっていったね。	・要約するのに必要な中心となる語や文を見付ける。 ◎自分の興味の中心に沿った語や文を選び、抜き出しているか。 ◎選んだ語や文が必要な情報かどうか吟味して確認しているか。	☆デジタル教科書の黒板機能を活用し、自分の興味の中心に沿った語や文（キーワード）を抜き出す。 ・付箋機能を使い、自分の考えや感想も随時打ち込んでおくよう指導する。 ☆読み取りが十分できる児童には、なぜその語や文が必要なのか説明できるような準備を促す。 ☆概ね読み取ることができる児童には、中心となる語や文を自力で見付けるよう促し、個別指導を行う。 ☆読み取りが十分でない児童には、デジタル教科書のワークを見ながら大事な語や文を抜き出すよう促し、個別に指導する。 ・興味の中心が同じ児童同士でグループを作る。 ・友達に教えてもらったキーワードは、色を変えるよう指導する。 ◆ウー① 進んで、既習事項を生かしながら、自分の興味の中心に沿った語や文を探している。 【デジタル教科書の黒板機能、発言】
ま と め	6 本時の振り返りをし、次時への見通しをもつ。		・本時のめあてに正対して書くように促す。（自分の考えに対する変化） ・学習計画を確認しながら、次時への課題を書くように促す。

(3) 授業観察の視点

デジタル教科書の黒板機能で中心となる語や文を抜き出すことは、大切な言葉を見せつけたり、整理したりするのに有効であったか。

(4) 板書計画

<p>スクリーン</p>	<p>ふり返り</p>	<p>年代 場所 体長 調査の内容 調査結果</p>	<p>例 ○ 中心となる語や文とは？ ・ 自分が興味をもった内容で、大事な語や言葉</p>	<p>めあて 自分の興味をもったところに合わせて、中心となる語や文を抜き出そう。</p>	<p>ウナギのなぞを追って 塚本 勝巳</p>
--------------	-------------	--------------------------------	---	--	-----------------------------

6 本時の展開

【2組（8／9）】

(1) ねらい（8／9）

自分の興味の中心に沿って、文章を要約することができる。

(2) 本時の展開

時間	学習内容	・指導事項 ◎豊かな表現を 見取る視点	◆評価規準 ☆支援 ・指導上の留意点
導入	1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。		
要約文を友達と読み合い、アドバイスを基に書き直そう。			
展開	3 前時に要約した文章を友達と読み合い、アドバイスし合う。 T 前回書いた要約文を見せ合い、アドバイスし合いましょう。中心となる語や文がきちんと入っているかも確かめましょう。 C つなぎ言葉を入れた方がいいのではないかな。 C 調査の内容はもう少し短くまとめた方がよい。 4 友達のアドバイスを基に再構築する。 T 友達のアドバイスを基に、もう一度要約文を書き直しましょう。	《読み合う視点》 ①興味の中心が伝わるか。 ②読んだことがない人に話の大体が伝わるか。 ③「読みたい」という気持ちにさせられているか。 ◎友達のアドバイスを基に、よりよい要約文にするために再構築しているか。	・スクールタクトで文章を共有し、コメントを送り合う。 ・読み合う視点に沿って、適切なアドバイスができるよう促す。 ・フォントの色を変えるなど、変更点がわかるようにすることで、事前と事後でどのように自分の文章が変化したのかわかるようにする。 ☆読み取りが十分できる児童には、アドバイスを吟味しどのように取り入れればよりよい要約文になるか考えるよう促す。 ☆概ね読み取ることができる児童には、アドバイスを基に自力で再構築できるよう促す。 ☆読み取りが十分でない児童には、前時のヒントカードとアドバイスを基に、文章を再構築できるよう促し、個別に支援する。 ◆イー① 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。 ・友達と文章を読み合い、アドバイスし合うことで、文章を

			再構築することができる。 【スクールタクト】
まとめ	5 本時の振り返りをし、次時への見通しをもつ。		《視点》 ・友達にどのようなアドバイスをもらい、どのように直したか。 ・友達のどのようなところを参考にして直したか。 ・直したことでさらによくなったところ。

(3) 授業観察の観点

要約文を読み合い、アドバイスする活動は、元の文章よりもさらにより要約文を書くことに有効であったか。

(4) 板書計画

ウナギのなぞを追って

塚本 勝巳

めあて

要約文を友達と読み合い、アドバイスをもとに書き直そう。

〈読み合う視点〉

① 興味の中心が伝わるか。

② 読んだことがない人に話の大体が伝わるか。

③ 「読みたい」という気持ちにさせられているか。

振り返り

《視点》

- ・友達にどのようなアドバイスをもらい、どのように直したか。
- ・友達のどのようなところを参考にして直したか。
- ・直したことでさらによくなったところ。

スクリーン